

Panasonic XC KADOMA (パナソニック・クロスシー カドマ)

自然やまちに開かれた“ニューノーマル時代のワークプレイス”

建築物概要

- 所在地：大阪府門真市元町 22-6
- 建築主：パナソニック ホールディングス株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
- 用途：事務所
- 敷地面積：7,754 m²
- 建築面積：4,753 m²
- 延べ面積：24,471 m²
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上7階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.0
- 重点評価：CO₂削減 4.2/みどり・ヒートアイランド 3.7/
建物の断熱性能 3.4/エネルギー削減 5.0/
自然エネルギー直接利用 4.0



【立地、周辺環境】

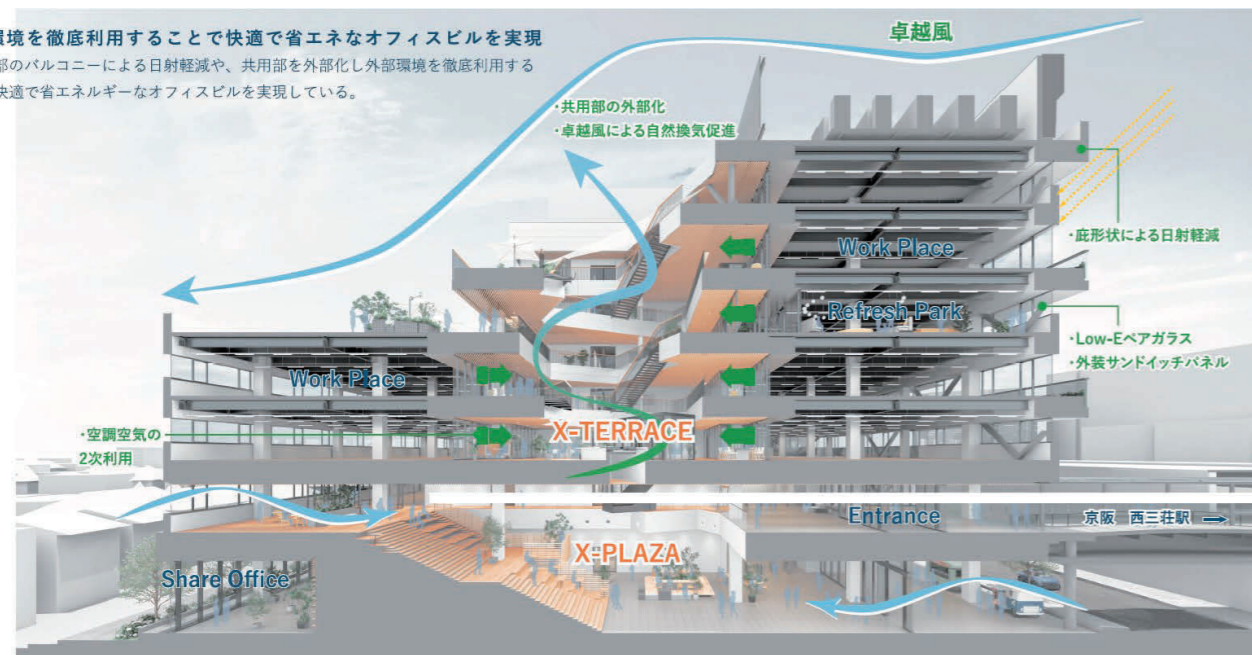
京阪電鉄西三荘駅の北側に位置し、パナソニック西門真（本社・工場敷地）の玄関口となる敷地。敷地南側に駅舎、西側にパナソニック社敷地、北・東側に住宅街が広がり、方位により状況の異なる環境に対して配慮しながらも統一された意匠を保つ計画とした。

【総合的なコンセプト】

「集まる」をデザインする」ことをコンセプトに1,2階に地域にも開放されたコミュニティギャラリー、3~7階スパイラルガーデン、オフィス専用バルコニーなど様々な空間をオフィスに取り込む計画を行なった。また信頼性・安全性という面からレジリエンスサポートの強化、将来的な建物運営の対応がしやすい室内空間については合理的な計画とし、環境性・省エネルギーに配慮した建物計画としている。

建物断面構成図

外部環境を徹底利用することで快適で省エネなオフィスビルを実現
外周部のバルコニーによる日射軽減や、共用部を外部化し外部環境を徹底利用する事で、快適で省エネルギーなオフィスビルを実現している。



環境配慮事項とねらい

知的創造、健康、快適性を高めるワークプレイス

■ ABW(Active Based Workplace/Working)

集中思考できる場、カジュアルに交流できる場など多様な場所を計画し、ワーカーが自立的に最適な場所を選択して働くことができるオフィス空間。



オフィス内観パース

■ 共用部の外部化

建物中央部を縦に貫く外部空間に配置されたテラススペースやオフィス専用バルコニーなど外部化された共用部を介して社員同士の交流を促す空間構成。

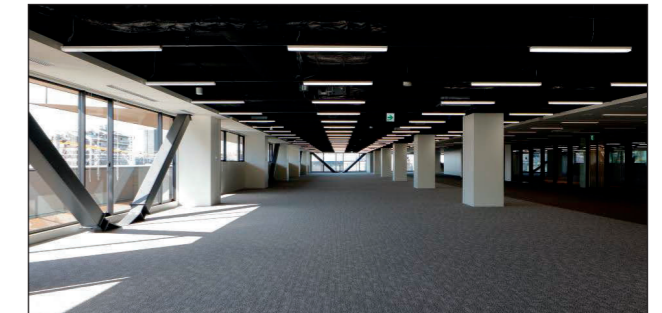


外部テラス

省エネルギー性を高めた外装・設備計画

■ 高い外皮性能を有するファサード計画

外壁はサンドイッチパネルにより建物の外皮性能を高めている。開口部は日射熱負荷が多い西面に Low-E ペアガラス及びバルコニー部の水平庇により日射遮蔽性能を高めており、建物の外皮性能を示す BPI は 0.89 である。



オフィス内観写真

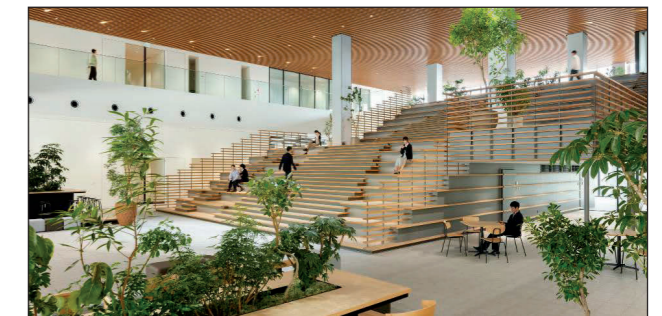
■ 照明計画

オフィスはタスクアンビエント方式とし、アンビエント照度を 500lx(机上面)の設定としている。また、オフィス外周部には昼光センサを配置し、窓際採光により近傍の照明器具を調光し、省エネルギーに配慮する計画としている。

■ 空調・換気計画

高効率パッケージエアコンを採用し、インテリア部は天井カセット型の室内機を選定することで搬送動力を低減している。1,2階コミュニティスペースは大人数の収容も想定される大空間となるため、CO₂濃度に応じた換気風量制御により、空調負荷を低減している。

共用部を外部化しているだけでなく、スパイラルガーデンへの空調空気の 2 次利用や各階は窓手動開放により自然換気可能な計画としており、中間期の空調・換気エネルギーを削減している。



コミュニティスペース内観写真

建物のレジリエンス性能を高める計画

■ 災害時の BCP 計画

災害時に非常用発電機による重要機能室、重要設備への電源供給や緊急遮断弁による受水槽内上水の確保、緊急排水槽設置による断下水対応を計画している。

■ 浸水対策

防災センターや電気室などの重要機能室を 2 階に配置することや、1 階に設置される重要機器を浸水想定ライン以上へ配置することで建物浸水時でも設備機能の損傷を防ぐ計画としている。

環境性能

環境認証として CASBEE(建築)S ランク(BEE=3.0)を取得し、省エネルギー性能 (BLES 認証) は、ZEB-Oriented(BEI=0.57)となっている。その他にも LEED 認証や WELL 認証および CASBEE-WO の取得も予定している。

施工計画におけるデジタル化の推進

■ BIM による干渉確認と合意形成

設備配管モデルと鉄骨モデルを BIM にて干渉確認を行い、配管ルートの見直しや各種設備機器のメンテナンス空間確保の確認、鉄骨スリーブの位置・補強について、設計・現場・鉄骨製作者で情報共有しながら検討を進めた。



BIM による整合性チェック